市政のここが聞きたい！

一般質問





9月通常会議では14人の議員が登壇しました

「もっと暮らしやすいまちにしてほしい」「この課題をどう考えているの？」――。

日々の暮らしの中で感じる疑問や地域の課題を議員が取り上げ、行政の考えや今後の対応をただすのが一般質問です。

今回の定例会でも、子育てや福祉、防災、教育、地域づくりなど、市民生活に関わるさまざまなテーマについて質問が行われました。それぞれの議員が地域の現状や市民の声をもとに課題を提起し、市長や担当部局から今後の取り組みや考え方について答弁を受けました。

ここでは、今回行われた一般質問の中から、主な質問と答弁の内容を紹介します。

市政が抱える課題と、これからのまちづくりについて、議会でどのような議論が交わされたのかをご覧ください。

ユーチューブ
9月通常会議

■一般質問の「QRコード」を読み取ると、
その議員の一般質問の動画を視聴できます。

無医地区には最低でも巡回診療は必要。放置しないで。



高橋（たかはし） 久美子（くみこ） 議員

住み慣れた地域に住み続けるためにも巡回診療を

Q へき地医療支援制度などを利用し、住民の切実なニーズでもある対面診療、巡回診療を進めていく考えは。

A へき地医療に係る各種補助制度や辺地債を活用し、対面診療や巡回診療を実施することは制度上可能。しかし、岩手県において医師不足が深刻な状況が続いており、巡回診療を継続して実施するためには、医療機関や医師の確保をはじめとした持続可能な運営体制の構築が必要。

今回の質問

① 無医地区への対面診療、巡回診療の実現を
② 生命を守るためのエアコン設置を



議会・会議での部課長の発言も市長の責任だ



高橋（たかはし） 孝二（こうじ） 議員

大学設立計画を見直す考えはないか

Q 市は「大学が無いと生き残れない」と発言しているが、どのような趣旨なのか。私に届くのは、大学を造るお金があるなら市民生活の改善に直結することに使用してほしいという意見がほとんどだ。

A 「大学がないと生き残れない」と発言したことはない。大学は、地域産業の競争力を維持し、市民福祉の増進を図るための手段。人口減少時代にあっても北上市が活力ある地域として持続していくため、人材育成と産業振興の基盤整備をすることが重要。

今回の質問

① 「生成ＡＩ時代の対応」について
② 「北上市立工科大学設立計画」について、見直す考えはないか



AIで生まれた時間を、市民と向き合う時間へ！



藤原（ふじわら）　慶（けい）　議員

生成AIの活用を市民サービスの向上へ

Q 生成ＡＩの活用を、市民サービスの向上にどうつなげるか。推進体制や人材育成は。

A 文書作成などのモデル業務で時間削減などの効果を測定・評価し、創出した時間を企画立案や住民対応などに充てたい。ＤＸサポーターによる事例共有や相談対応の仕組みを検討し、課題設定能力や対話力を高める研修も継続する。電話対応や窓口案内など他自治体の事例を調査し、市民ニーズが高く、ＡＩ活用が有効な分野から展開する。

今回の質問

① スケートボードパークの令和９年度の事業化に向けた進捗と今後の展望について
② 生成ＡＩの全庁展開による業務改革と市民サービスの向上について



介護人材定着につながる制度整理が必要ではないか



千田（ちだ）　優子（ゆうこ）　議員

外国人も働き、住み続けたい北上市に

Q 介護人材養成事業費補助金は、北上市内の就職意向を要件として交付されるが、定着に結び付く仕組みの検討が必要ではないか。

A 留学生が増えてきたため、就職期間の調査など、制度を検討する転換期であると認識している。

Q 市内事業所への外国人材の受け入れ支援は。

A 事業者間のネットワーク整備や、情報交換の場などを検討していく。補助金の交付者と事業者がマッチングできるまで、支援していく。

今回の質問

① 介護人材定着ついて
② 多文化共生社会の推進について



新庁舎建設について真剣に考える時期が来ているぞ！



藤田（ふじた）　民生（たみお）　議員

新庁舎建設予定地の今後の方針は

Q 新庁舎建設予定地の発電所かむいソーラーは、２０３３年に事業期間が終了となる。２０３１年からの次期総合計画には、本庁舎建設と併せ予定地の具体的な方針を示すべきだ。

A かむいソーラーの設置期限があるので、地域や議会の意見も踏まえながら土地の活用について検討を進めるとともに、活用方針についても、その進捗に応じて次期総合計画への位置づけを検討していく。

今回の質問

① 庁舎建設予定地の今後の方針について
② 市道林崎有田線の歩道未整備区間の解消について　他１件



北上第１・第２ソーラー発電（かむいソーラー）

水洗化費用の捻出困難、物価高での工事費増の軽減を



安徳（あんとく）　壽美子（すみこ）　議員

合併浄化槽設置への補助や維持費の引き上げを

Q 北上市は、集合処理区域外における合併処理浄化槽の設置に対し６割補助をしているが、花巻市は９割補助であり、維持費にも１万円補助がある。環境政策や住民生活向上に向けて補助率を上げる考えは。

A 北上市の補助額は県内３番目の高水準である。合併処理浄化槽の場合と農業集落排水による集合処理の場合における個人負担が同等の水準となるよう補助割合を決定したものであり、公平性が損なわれるため、補助引き上げは考えていない。

今回の質問

① 下水道事業について
② 第 10 期介護保険事業計画の充実について



合併処理浄化槽（イメージ図）

「挑戦」しない北上に明るい未来はない！



藤原（ふじわら）　常雄（つねお）　議員

大学設置は「若者成長」と「地域活性化」！

Q 「候補地選定」を先行させる理由は。

A 昨年10月臨時会議における論点の一つが設置場所だったと捉えている。民間団体からの大学設置推進の要請の中でも指摘された。

Q 候補地選定の検討手法、費用の内訳は。

A 市民ワークショップを開催し、市民意見を聴取する。それを踏まえ、有識者検討会議で候補地を絞り優先順位をつける。費用の内訳は、基礎的条件調査とワークショップ運営等の委託費が約４５０万円、候補地検討委員への謝金や旅費などが約１５０万円。

今回の質問

① 大学設置推進事業の今後の取組について



小中学校等の既存施設更新と大学設置は両立できるか



八重樫（やえがし）　民徳（たみのり）　議員

市民に大学設置の妥当性を判断できる財源説明を

Q 大学関連経費は、昨年10月時は約１３５億円だったが、先に示された中期財政見通しでは１８２億円に上昇した。約１４３億円起債する大学設置について改めて市民に丁寧に説明し理解を求めるべきではないか。

A 基本調査や基本構想策定時に市議会全員協議会や市民説明会などの場で大学設置費用や運営費、財源などの想定経費を説明してきた。改めて建設候補地の選定を進め、設置費用を再算定した後に必要な費用と財源、財政見通しを市民、市議会に説明していく。

今回の質問

① 北上市立大学設置推進事業と財政問題について



負担のより大きい家庭には手厚い支援をすべき



佐々木（ささき）　護（まもる）　議員

多胎家庭支援の充実を！

Q 多胎妊娠では単胎妊娠より多くの妊婦健診が必要となる場合がある。14回を超える健診費用は保険診療や自費負担となるが、追加助成について、市の検討状況を伺う。

A 多胎妊娠は医学上、母体や胎児に注意が必要な妊娠で、医療機関では単胎妊娠より頻回に健診を行っており、経済的な負担となっているものと捉えている。安心して出産に臨めるよう、他自治体の状況を調査・検討し、医療機関などとも協議する。

今回の質問

① 市立大学設置の判断基準について
② 多胎妊産婦及び多胎家庭への切れ目のない支援について

他１件



くらしを支えることも次の世代へつなぐ未来への投資



田島（たじま）　清美（きよみ）　議員

限られた財源は市民生活を支える施策を優先に

Q 長期の財政負担を見込む大学設置と、市民サービスの維持・充実をどう両立するのか。

A 大学と市民サービスを対立的に捉えず、税収基盤を維持し、両立を図る。

Q 子育て、教育、福祉、介護などの市民生活を支える施策も「未来への投資」ではないか。

A 住民福祉の増進は行政の最も重要な役割。そのための財源確保は不可欠。限られた財源は、現在のサービスを維持するとともに、将来の税収を生む産業振興のためにも投資する必要がある。

今回の質問

① 加齢性難聴の早期発見と社会参加を支える取り組みについて
② 限られた財源の中で、市民のくらしを守るための財政の優先順位について



「コミュニティバス『おに丸号』の利便性向上を」



もっと多くの市民が利用できるように‥

高橋（たかはし）　晃大（あきひろ）　議員

Q　おに丸号の平日毎日運行化を望む声が多いが、今後の方向性は。

A　令和9年度から稲瀬線、令和10年度には相去線、鬼柳線、立花岩崎線、令和11年度には飯豊黒岩線、二子更木線の平日の毎日運行を想定して、現在検討中である。

Q　運行ルート見直しの検討は。

A　平日毎日運行化と併せて検討したいと考えている。



今回の質問

① 鬼柳町・中央地区の私道における除雪の対応について
② 自治会業務の負担について
③ おに丸号について　他１件

「市立大学の設置目的には無理があるのではないか」



産学連携は産業支援センターの役割が期待されている

平野（ひらの）　明紀（あきのり）　議員

Q　大学の設置目的「2050年問題への対応」とは、具体的にどのようなイメージか。

A　雇用の確保、所得の向上、税収の確保を意味する。大学は、産業の生産性向上、質の向上に重要な役割を果たす。

Q　北上市における産学連携の現状と課題はどうか。

A　市内中小企業と大学等との共同研究に対し、19年間で68件の補助実績がある。課題として、近隣にニーズにマッチする大学がなく、選択肢の拡大が望ましい。

＊ウォーターPPP…水道・下水道の維持管理と更新を、民間に一体的に委託する官民連携方式。

今回の質問

① 北上市立大学の設置について
② 業務の外部化の検証と見直しについて
③ 下水道事業におけるウォーターＰＰＰ(＊)の導入について



「農地・農業用施設への災害復旧支援を」



安心して農業が続けられる地域であってほしい!!

小原（おばら）　享子（きょうこ）　議員

Q　8月末現在、集中豪雨の被害は。

A　農地8件で約1億1100万円、農業用施設10件で約3億6900万円。

Q　国の制度対象外の小規模災害への支援は。

A　農地などの適切な保全管理を推進する多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金を活用してほしい。

Q　小規模な災害等に対する市独自の支援制度の創設は。

A　復旧工事などに柔軟な対応が必要。市独自の支援制度を研究する。

今回の質問

① 集中豪雨による農地・農業用施設の災害復旧と農業者支援について
② 医療的ケア児支援法の改正を踏まえた切れ目ない地域支援体制の構築について
③ 若年層の口腔内健康意識向上と歯科検診支援の拡充について

「速やかに人的応援を受ける計画の策定を」



災害時はみんなで助け合おうよ！

熊谷（くまがい）　浩紀（こうき）　議員

Q　市が被災した場合の人的受援計画の策定状況は。

A　令和6年3月に受援計画の骨子は定めたが策定には至っていない。市が被災した場合、避難所運営や支援物資にかかる業務、住家の被害認定調査など、短時間に膨大な災害対応業務が発生する。行政機能の低下を防ぐためには応援職員を迅速に受け入れ、情報共有や各種調整などを行うための受援体制の整備が不可欠であるため、受援計画の策定を進めたいと考えている。

今回の質問

① 大規模災害時における人的受援体制の実効性について
② 防災庁の発足を見据えた防災体制の強化について

